

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大原簿記情報専門学校札幌校
設置者名	学校法人大原学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化教養 専門課程	ビジネスコミュニケーション学科	夜・通信	450	160	
工業 専門課程	情報システム学科	夜・通信	1,380	160	
商業実務 専門課程	ビジネスキャリア1年制学科	夜・通信	150	80	
	ビジネスキャリア2年制学科	夜・通信	450	160	
	会計システム2年制学科	夜・通信	630	160	
	会計システム4年制学科	夜・通信	810	320	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大原簿記情報専門学校札幌校
設置者名	学校法人大原学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/officer_list.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	司法書士事務所 所長	2019.4.1～ 2023.3.31	法人運営における法 務的な検証、管理
非常勤	Web デザイン・システム 開発・印刷関連企業 代表	2019.4.1～ 2023.3.31	学生募集、教材開発 への助言
非常勤	前：不動産関連企業 代表	2019.4.1～ 2023.3.31	校舎等学習環境の 整備への助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大原簿記情報専門学校札幌校
設置者名	学校法人大原学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>(1)授業計画書の作成 授業計画書(シラバス)は毎年の運営状況を確認、検証し、学科による会議ならびに教育課程編成委員会による提言等により各科目の内容を検討し、学科責任者が監修のもと担当教員が次年度のカリキュラム編成ならびに授業計画の作成をしている。</p> <p>(2)公表に係る取組み 授業計画書(シラバス)ならびに確定したカリキュラムは新学期開始までにホームページを通じて公表するとともに学生に授業開始時に説明をしている。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>ホームページにて公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学業成績の評価と判定、授業時間の履修および単位の修得認定については、「成績評価・GPA等算定に関する規程」により実施している。</p> <p>(1)学業成績の評価と判定 学業成績の評価は、授業科目ごとに行う定例試験のほか、授業科目により中間試験や課題提出等により行う。 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。</p> <p>(2)授業時間の履修および単位の修得認定 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀・優・良・可を取得した学生には授業時間の履修および単位の修得を認定する。各科目の成績を判定の上、不可の場合は授業時間の履修および単位の修得を認定しない。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
 グレード・ポイント(以下GPという)の付与およびグレード・ポイント・アベレージ(以下GPAという)の算定については以下のとおりである。

- (1) 相対評価により成績順位をつける必要がある場合にはGPAを用いて行う。
 なお、順位づけの範囲は「学校」とする。
- (2) GPの付与は学業成績の判定をもとに以下のとおりとする。

学業成績の判定	GP
秀	4
優	3
良	2
可	1
不可	0

- (3) GPAの算定においては次の式により計算するものとする。

※小数点以下第3位の値を四捨五入

【GPA算定式】

$$GPA = \frac{(\text{履修科目のGP} \times \text{履修単位数}) \text{の合計}}{\text{総履修単位数}}$$

客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページにて公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)
 卒業の認定は、各学科の修業年限以上在学して、下記に定める授業時数以上履修し、学科ごとに定める授業科目および単位を修得し、かつ、卒業審査に合格した者について校長が行う。

- (1) ビジネスキャリア1年制学科
 800時間(30単位)
 - (2) ビジネスコミュニケーション学科、情報システム学科、ビジネスキャリア2年制学科、会計システム2年制学科
 1,700時間(62単位)
 - (3) 会計システム4年制学科
 3,400時間(124単位)
- 上記の卒業の認定は、最終学年の終わりに行う。

卒業の認定に関する方針の公表方法	ホームページにて公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/
------------------	---

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大原簿記情報専門学校札幌校
設置者名	学校法人大原学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.ohara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①-1. 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		専門課程	ビジネスコミュニケーション学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,890 単位時間	3,630 単位時間	2,670 単位時間	1,140 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			7,440 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		0人	0人	4人	0人	4人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 毎年の運営状況を確認、検証し、学科による会議ならびに教育課程編成委員会による提言等により各科目の内容を検討し、学科責任者が監修のもと担当教員が次年度のカリキュラム編成ならびに授業計画の作成をしている。
成績評価の基準・方法
（概要） 学業成績の評価は、授業科目ごとに行う定例試験のほか、授業科目により中間試験や課題提出等により行う。学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 進級の認定は、各学科の各学年において定める授業科目の履修および単位の修得を行い、かつ出席状況などの学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。

卒業の認定は、各学科の修業年限以上在学して、卒業に必要な授業時数以上履修し、学科ごとに定める授業科目の履修および単位の修得を行い、かつ卒業審査に合格した者について校長が行う。
学修支援等
(概要) クラス担任および科目担当者による学修支援、長期欠席者への指導等の対応、父母等への連絡および通知

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

①－２．学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1890 単位時間	330 単位時間	330 単位時間	2,430 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			3,090 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		82人	0人	3人	0人	3人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 毎年の運営状況を確認、検証し、学科による会議ならびに教育課程編成委員会による提言等により各科目の内容を検討し、学科責任者が監修のもと担当教員が次年度のカリキュラム編成ならびに授業計画の作成をしている。
成績評価の基準・方法
（概要） 学業成績の評価は、授業科目ごとに行う定例試験のほか、授業科目により中間試験や課題提出等により行う。学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 進級の認定は、各学科の各学年において定める授業科目の履修および単位の修得を行い、かつ出席状況などの学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。 卒業の認定は、各学科の修業年限以上在学して、卒業に必要な授業時数以上履修し、学科ごとに定める授業科目の履修および単位の修得を行い、かつ卒業審査に合格した者について校長が行う。
学修支援等
（概要） クラス担任による学修支援、父母等への連絡および通知

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
39人 (100%)	0人 (0%)	35人 (89.7%)	4人 (10.3%)
(主な就職、業界等) IT業界等の一般事業会社			

(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、業界研究セミナー、個別面接トレーニングなど
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験合格者7名など
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
85人	8人	9.4%
(中途退学の主な理由) 就職による進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による定期面談(本人および父母等)、適切な授業履修の助言		

①－３．学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	ビジネスキャリア1年制学科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	900 単位時間	1,440 単位時間	780 単位時間	240 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2,460 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		0人	0人	1人	0人	1人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年の運営状況を確認、検証し、学科による会議ならびに教育課程編成委員会による提言等により各科目の内容を検討し、学科責任者が監修のもと担当教員が次年度のカリキュラム編成ならびに授業計画の作成をしている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>学業成績の評価は、授業科目ごとに行う定例試験のほか、授業科目により中間試験や課題提出等により行う。学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>進級の認定は、各学科の各学年において定める授業科目の履修および単位の修得を行い、かつ出席状況などの学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>卒業の認定は、各学科の修業年限以上在学して、卒業に必要な授業時数以上履修し、学科ごとに定める授業科目の履修および単位の修得を行い、かつ卒業審査に合格した者について校長が行う。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>クラス担任および科目担当者による学修支援、長期欠席者への指導等の対応、父母等への連絡および通知</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1人 (100%)	1人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			

(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、面接トレーニングなど
(主な学修成果 (資格・検定等)) 日本語能力検定試験 N2 合格 1 名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任または管理職による定期面談 (本人および父母等)		

①-4. 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	ビジネスキャリア2年制学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,890 単位時間	2,580 単位時間	2,430 単位時間	1,050 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			6,060 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		124人	0人	5人	0人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>毎年の運営状況を確認、検証し、学科による会議ならびに教育課程編成委員会による提言等により各科目の内容を検討し、学科責任者が監修のもと担当教員が次年度のカリキュラム編成ならびに授業計画の作成をしている。</p>	
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>学業成績の評価は、授業科目ごとに行う定例試験のほか、授業科目により中間試験や課題提出等により行う。学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。</p>	
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>進級の認定は、各学科の各学年において定める授業科目の履修および単位の修得を行い、かつ出席状況などの学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>卒業の認定は、各学科の修業年限以上在学して、卒業に必要な授業時数以上履修し、学科ごとに定める授業科目の履修および単位の修得を行い、かつ卒業審査に合格した者について校長が行う。</p>	
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>クラス担任および科目担当者による学修支援、長期欠席者への指導等の対応、父母等への連絡および通知</p>	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
77人 (100%)	0人 (0%)	70人 (90.9%)	7人 (9.1%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>一般事業会社、税理士事務所</p>			

(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、面接トレーニングなど
(主な学修成果 (資格・検定等)) 日商簿記検定1級2名合格、全経簿記検定上級1名合格 日商簿記検定2級27名合格、など
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
132人	16人	12.1%
(中途退学の主な理由) 経済的事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任または管理職による定期面談 (本人および父母等)		

①－５．学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	会計システム2年制学科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,890 単位時間	7,620 単位時間	4,110 単位時間	990 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			12,720 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		27人	0人	2人	0人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>毎年の運営状況を確認、検証し、学科による会議ならびに教育課程編成委員会による提言等により各科目の内容を検討し、学科責任者が監修のもと担当教員が次年度のカリキュラム編成ならびに授業計画の作成をしている。</p>	
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>学業成績の評価は、授業科目ごとに行う定例試験のほか、授業科目により中間試験や課題提出等により行う。学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。</p>	
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>進級の認定は、各学科の各学年において定める授業科目の履修および単位の修得を行い、かつ出席状況などの学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>卒業の認定は、各学科の修業年限以上在学して、卒業に必要な授業時数以上履修し、学科ごとに定める授業科目の履修および単位の修得を行い、かつ卒業審査に合格した者について校長が行う。</p>	
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>クラス担任および科目担当者による学修支援、長期欠席者への指導等の対応、父母等への連絡および通知</p>	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	3人 (60.0%)	2人 (40.0%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>一般事業会社、監査法人、税理士事務所</p>			

(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、面接トレーニングなど
(主な学修成果 (資格・検定等)) 税理士簿記論 2 名合格、税理士財務諸表論 1 名合格 日商簿記検定 1 級 4 名合格、全経簿記検定上級 5 名合格 など
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37 人	5 人	13.5%
(中途退学の主な理由) 経済的事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任または管理職による定期面談 (本人および父母等)		

①-6. 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	会計システム4年制学科	—	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,810 単位時間	12,540 単位時間	10,950 単位時間	1,050 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			24,540 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		55人	0人	5人	0人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年の運営状況を確認、検証し、学科による会議ならびに教育課程編成委員会による提言等により各科目の内容を検討し、学科責任者が監修のもと担当教員が次年度のカリキュラム編成ならびに授業計画の作成をしている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>学業成績の評価は、授業科目ごとに行う定例試験のほか、授業科目により中間試験や課題提出等により行う。学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>進級の認定は、各学科の各学年において定める授業科目の履修および単位の修得を行い、かつ出席状況などの学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>卒業の認定は、各学科の修業年限以上在学して、卒業に必要な授業時数以上履修し、学科ごとに定める授業科目の履修および単位の修得を行い、かつ卒業審査に合格した者について校長が行う。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>クラス担任および科目担当者による学修支援、長期欠席者への指導等の対応、父母等への連絡および通知</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100%)	2人 (16.7%)	10人 (83.3%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>一般事業会社、監査法人、税理士事務所</p>			

(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、面接トレーニングなど
(主な学修成果(資格・検定等)) 公認会計士論文式試験1名合格、公認会計士短答式試験4名合格 税理士簿記論7名合格、税理士財務諸表論4名合格 日商簿記検定1級9名合格、全経簿記検定上級7名合格 など
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52人	7人	13.5%
(中途退学の主な理由) 経済的事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任または管理職による定期面談(本人および父母等)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
ビジネスコミュニケーション学科	100,000円	640,000円	230,000円	
情報システム学科	100,000円	680,000円	240,000円	
ビジネスキャリア1年制学科	100,000円	640,000円	220,000円	
ビジネスキャリア2年制学科	100,000円	640,000円	230,000円	
会計システム2年制学科	100,000円	640,000円	230,000円	
会計システム4年制学科1・2年次	100,000円	640,000円	230,000円	
会計システム4年制学科3・4年次	—	440,000円	230,000円	
修学支援(任意記載事項)				
試験による特別奨学生制度 資格・クラブ活動等による特別奨学生制度				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 当学園の基本理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行い、もって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現できているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して評価する。 課題が残る評価結果については、課長職以上の管理職が改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
イオン北海道株式会社	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日	企業等委員
税理士法人 Future Create	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日	企業等委員
一般社団法人 北海道情報システム産業協会	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日	企業等委員
キーウェア北海道株式会社	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日	企業等委員
合同会社 ヒロコーポレーション	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日	卒業生
キーウェア北海道株式会社	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日	卒業生
札幌市北区鉄西第7町内会	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日	近隣住民
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.o-hara.ac.jp/senmon/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	大原簿記情報専門学校札幌校
設置者名	学校法人大原学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		41人	40人	44人
内 訳	第Ⅰ区分	25人	25人	
	第Ⅱ区分	－人	－人	
	第Ⅲ区分	－人	－人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				44人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人
(備考)					

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	一人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	一人
計	0人	0人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。